

第13回「文芸思潮」エッセイ賞 発表

第13回
文芸思潮
エッセイ賞

二〇一八年度第13回「文芸思潮」エッセイ賞には、一年お休みをいただいたにもかかわらず、二六七篇という多数の御応募をいただきました。まことにありがとうございました。今回も十五歳から九十七歳まで幅広い世代から寄せられ、さらに地域的にもアメリカや、太平洋諸島、ヨーロッパなどからも御応募をいただき、地球的な広がりを得たコンテンツとなりました。貴重な体験だけでなく、歴史としても重要な記録や、社会に対する鋭い批評も多く寄せられ、現代に生きる人々の様々な姿が反映された充実した内容でした。

例年の通り、まず選考委員会予選担当による第三次までの予選選考が行なわれ、最後に三神弘、水木亮、都築隆広、五十嵐勉四人の選考委員によって激しく、厳しく討議されました。厳正な審査の結果、以下の通り受賞作が決定いたしましたので、ここに発表させていただきます。

今号には当選作および優秀賞を発表させていただきますが、以後奨励賞なども、極力「文芸思潮」誌上に掲載させていただきます。御期待ください。

今回授賞式は開催せず、賞状、賞金、記念品の発送をもって代えさせていただきます。お許しください。

「文芸思潮」エッセイ賞

最優秀賞

「五九〇グラムで産んでしまった」

小川かをり（東京都狛江市）

「炎」

上原翠子（熊本県熊本市）

優秀賞

「汽笛のなく家」

植村恵子（長崎県長崎市）

「ピロピロ笛」

望月ひろこ（愛知県春日井市）

「確かな友情」

宮尾美明（愛知県愛西市）

「生きる」

音葉 紬（長野県上田市）

「子供のときの飴売り」

龍口 宏（埼玉県さいたま市）

「タエさんと天ぷら鍋」

田中美晴（大阪府豊中市）

奨励賞

「定山溪はつ恋軌道」 金田一 淳（青森県三戸郡）

「駅」 近藤幹夫（福井県勝山市）

「山椒大夫の姉」 九条之子（東京都昭島市）

「母のアルバム」 牧 康子（東京都杉並区）

「湯けむりの中」 有澤かおり（富山県高岡市）

「心の中の鉛」 川畑和嗣（北海道札幌市）

「かたわらのバルーン」 坂本かつえ（山梨県北杜市）

「小さな国の哲学」 森崎律子（大阪府大阪市）

「祖母の足音」 沖田有（福島県会津若松市）

「気になる人」 瀧沢 鈴（北海道函館市）

「運転免許返納」 前岡光明（東京都町田市）

「古代の海から―海からの贈り物―」 末永卓幸（ミクロネシア連邦）

「『百年の孤独』を想う」 村松佐保（群馬県吾妻郡）

「塩津港の簪」 山田まさ子（大阪府堺市）

「闇取引」 飯島もとめ（長野県長野市）

「孝行のしたい時分に」 濁川楨雄（大阪府大阪市）

「ふるさとを離れる」 三木俊平（兵庫県三木市）

「古井戸でんらく顛末記」 門脇雅子（埼玉県入間市）

「お地藏さん」 斉藤はな絵（北海道岩内郡）

「老桜」 大沢みゆき（東京都東久留米市）

「マサの命」 守藤康次（群馬県館林市）

「あした」 水木 翠（沖縄県那覇市）

「悲しみのまにまに」 秋葉 稔（岐阜県可児市）

「昭和は若かった」 田中文子（滋賀県大津市）

社会批評奨励賞

「十万年」 細野耕司（長野県佐久市）

佳作

- 「小さな本屋」 鎌田 誠
「自然治癒」 岩谷隆司
「駄菓子屋の夢のあと」 藤井典央
「ちよんどん」 早月春美
「さだめ」 上杉 辰
「老いの車」 大島直次
「白い手」 鈴木あぐり
「百歳の母の人生」 友 修二
「新任教師」 紙屋里子
「なぜ叩く」 くめちゃん
「笠置山」 川西葉吉
「終い湯の客」 中武 寛
「祖父の物語。その時歴史が動いた。」 藤森敦子
「大雪山のもとで」 河本美穂子
「『老い』の新しい夢を」 川口 翠
「万感の思い」 中野邦廣
「『五十嵐勉編集長をノーベル文学賞へ推す会』
会員募集のお知らせ」 葵井禎子
「日野草城の句に寄せて」 宮寺良平
「義広おじいさんのピアノ」 佐藤たか子
「宝探し」 中 他見男
「つぼね」 藤崎良子
「未熟な母の懺悔」 鬼山ランチ
「大阪のおばちゃん」 奥田 登
- 「除かれた雪」 三森唄乃
「人情時代劇」 鎌田 絢也
「家を燃やす」 武藤蓑子
「傷は海よりも深く」 深雪 朔
「雲の上の道標」 長枝 舞
「未来へ号」 小林カジノ
「嫌な予感」 川島英理沙
「親の仕事」 佐藤名緒子
「インド人の嫁」 有村一花
「僕の家にはリスが住んでいた」 長谷川敏久
「マイナーの方が盛り上がる」 ORU
「『七つの子』の謎」 西本美彦
「言葉の抜け殻」 水谷忠央
「神道と宗教」 福本彰一
「国際会議で見た必勝の方程式」 六藍光洋
「街並み」 塚原右京
「尺取虫のため息」 梶川洋一郎
「一陣の風に吹かれて」 上木戸 晃
「来訪者」 むかいはつこ
「サー、もう一度、歩こうよ」 印南房吉
「母、茶毘に付して」 渡辺 蓮

社会批評佳作

- 「『むつ』に嘔み付いた漁民の怒り」 黒岡 實
「アパルトヘイトの火種」 竹中水前
「手話通訳者の健康を守る取り組み」 横山典子

入選

- 「必然として」 三村耀子
「幼子との向き合い方」 朝川 渡
「幸せの中に」 吉野さくら
「事件」 藤崎淳子
「マイコのお母さん」 河上美智子
「生きているということ」 タダ
「『編集』を楽しむ」 さらみずえ
「私の病氣と治療遍歴」 ジブ
「デ・キリコの絵」 酒井恵三
「アメリカのボランティア活動」 高橋祚子
「小道の音」 菊池満子
「母のひと言」 吉田宏子
「母親という神話」 吉見博子
「遺構が語るもの」 鯛かもん
「水たまりの魚つり」 むらかみゆきひこ
「私はここに居る、それだけ」 原田あやこ
「良寛さんは保父さんだったんだ」 弟子丸博道
「いのち生まれて」 立花樹香
「残り香」 辻岡真紀子
「霧氷」 和田恵子
「ためらい と祈り」 能勢里子
「思春期思考」 ヒロシマコウスケ
「やられたっ！」 富嶽庵
「日常」 小野 薫

- 「スイフヨウ観察記」 土田真子
「長姉の歌集『光そこここに溢れて』編集逸話」 小野友貴枝
「見えない景色」 織本一十未
「母の思い出」 横須賀武弘

社会批評入選

- 「憲法九条（2014・7・1）」 anehako
「聴覚障害者競技団体はパラリンピックに復帰を！」 徳安利之
「考察―在米二十年、主婦によるアメリカとメキシコの関係―」 スターム尾田悦子